

名事研ニュース

No.162

名古屋市立小中特別支援学校事務研究協議会

<http://meijiken.sakura.ne.jp/>

令和2年度に引き続き、令和3年度についても新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を鑑み、名古屋市立小中特別支援学校事務職員研究大会は誌面開催となりました。なかなか先行きが見えない状況下でしたが、その中で名事研が取り組んだ活動について紹介します。

令和3年度 名事研事業について 会長 早川数幸



名事研活動にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大により、本会事業運営に様々な影響を受けました。この号でも取り上げています、市教委共催による研究大会においても、昨年度に引き続き誌面での開催となりました。世話係会を始め、多くの会が中止になりましたが、そのような中でも、研究大会の補足説明資料をWeb上にアップしたり、自席で行える新しい研修企画を試みたりなど、昨年度よりもステップアップした活動を行うことができました。これは、専門部のみなさんが、工夫を凝らし、自校での業務を行いながら、できることを考え実践した成果です。本会から提供している予算管理ソフト「すいすい予算管理」では、「予算状況が分かりやすく便利」「負担軽減になってありがたい」といった言葉もいただき、会を代表するものとして、誇らしく思うところです。

このような実践は、専門部で取り組んでいるみなさんの、現状に甘んじず、少しでも前に進もう、自分の職務環境はもちろん、学校を、そして、名古屋の学校事務を良くしたいという思いからの行動です。今後も先の見通せない状況が予想される中、学校事務職員一人一人がそのような気概で職務に取り組むことが、とても大切なことだと思います。学校の働き方を変える上で、学校事務のできることはとても大きいと思っています。今後も学校事務職員がその専門性を発揮し、より良い学校、そして子どもたちが安心して過ごせる環境の提供につながる活動を進めていきたいと思えます。学校事務職員のみなさまには、ぜひご協力いただき、自身の資質向上や学校の事務改善を図る手立ての一つにするなどして、業務に生かしていただきたく思います。

また、今年度の活動においても、市教委や校長会などのご助言や資料提供など、様々な場面でご支援いただくことで進めることができました。ここで、改めて感謝をお伝えするとともに、今後とも本会活動について、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

研究部活動報告（研究大会報告）

「新たな学校事務組織の構築を目指して ～システム思考による課題の構造化を中心に～」

研究部は、予測困難な時代にあっても子どもの学びを支援し続けていくことのできる、より発展的な学校事務組織の在り方について、2か年計画で研究を進めていくこととしました。そして、今年度は「新たな学校事務組織の構築を目指して ～システム思考による課題の構造化を中心に～」をテーマとし、以下のような学校事務組織を巡る全国的な動向の整理や、名古屋の「学校事務の学校間連携（以下、「学校間連携」）」の成果と課題の分析を行い、第27回名古屋市立小中特別支援学校事務職員研究大会で報告を行いました。

(1) 国の答申や法改正、及び政令指定都市の状況についての整理

平成10年以降の答申や法改正の内容をもとに、学校事務職員の関わる組織の変遷や、そこで期待されてきた役割について整理しました。共同学校事務室等の制度化の背景には、学校の自立性の確立や学校における働き方改革、複雑化・多様化する学校の課題への対応といった、教育全体に関わる問題が関係していることが分かりました。

あわせて、政令指定都市における共同実施等の実施状況を観点別に整理し、名古屋の学校事務組織を考える上で参考としました。

(2) 学校間連携に関する情報整理、フレームワークによる分析

名古屋の学校間連携について、平成20年度一部導入以降の変遷を客観的資料から整理しました。そして、現在の学校間連携の成果や課題を分析するために、「マッキンゼーの7S分析」「PEST分析」「SWOT分析」といった事業分析のフレームワークを用い、多角的な検討を行いました。

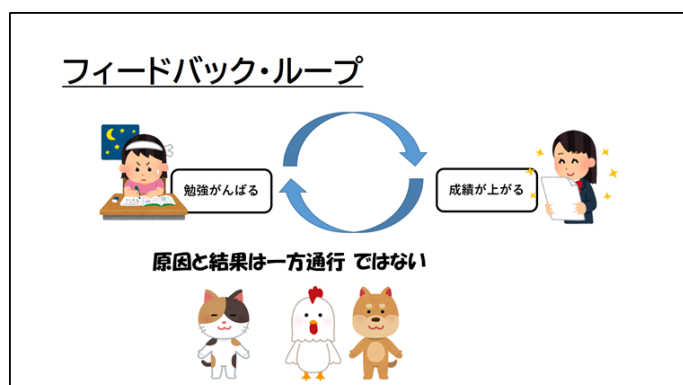
その結果、学校間連携の強みとしては「少経験者支援」「(参加者が)総務・財務の専門性をもっていること」「近隣の学校で構成されていること」「適正化・効率化・平準化」が挙げられ、弱みとして「全体的な戦略の不足」「評価制度がないこと」「兼務発令がないこと」等が挙げられました。一方、外的要因である機会としては「学校におけるICT化」「学校内での関わり」「家庭・地域との関わり」が挙げられ、脅威としては「運営面の連携」「学校事務職員関連組織(の連携)」等が挙げられました。

(3) システム思考による学校間連携の課題の構造化

(2) で見えてきた学校間連携の課題(弱みや脅威として挙げられたもの)について、「システム思考」を活用し、課題の構造化を行いました。「システム思考」とは、物事のつながりを図によって見える化することで、問題を生み出している「フィードバック・ループ」と呼ばれる因果関係を明らかにし、真の原因や解決策を探る思考法です。この方法を用いて、学校間連携の課題を一つ一つ深く掘り下げて検討していきましました。そして、発展的な組織を検討していく上で力点とするべきポイントを以下のようにまとめました。

- ① 学校の現状や課題を把握した中長期的で具体的な目標と戦略設定
- ② 学校運営と学校間連携の取り組みを効果的につなげる仕組みの創出
- ③ 兼務発令等の投資的な制度導入を視野に入れた、校内の事務的職務の整理

さらに、他の組織との関係においては、「教育行政と学校事務を地続きのものとして捉え、視点を共有しつつつながりを強化していくこと」や、「学校事務に関係する各組織・団体の目指すビジョンを、学校事務職員自身が明確に理解し、それぞれの運営に努めていくこと」が重要であると考えました。



来年度の研究では、こうしたポイントを踏まえ、より発展的な学校事務組織の在り方を検討していきます。また、関係各所と連携し、調査や検証を行うことで、実現可能性の高い組織像をお示したいと考えています。ご理解、ご協力の程、よろしくお願いたします。

事務局活動報告

令和3年度は、名事研のテーマ「つながり ひろげ 学び 育む ～新時代のあるべき学校像を目指して～」が3年目となります。

名事研の統括的な立場で組織の運営にあたる事務局は、名事研組織の事業計画の策定を始め、名事研事業のあり方の検討、各専門部活動や世話係会との連携が円滑に図れるように活動しています。

本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は避けられず、令和2年度と同様に書面（メール）による総会開催を始め、世話係会は複数回が中止となり、研究大会も誌面で開催することとなりました。そのような中、例年通り行事予定の作成や世話係会を始めとした派遣依頼の送付、事務職員間のつながりを支援する事務職員名簿や名事研要覧2021を発行することができました。また、外部団体とはメールで連絡を取り合い、政令市事務研の調査や全事研を通じた文科省のヒアリングに協力することができました。

世話係会では、名事研がこれからも活動し続けていくためにはどうしたらよいか協議を進めました。その中で名事研の土台である各区事務研の課題がうっすらと見えてきたのではないのでしょうか。各区の状況が違う中、一つの策で全てを解決することは困難ですが、名事研は協議会組織として、目標達成のために総括・調整を行い、区事務研や専門部と連携して取り組みを進めていきたいと考えています。

情報部活動報告

名事研事業を内外に発信する広報活動に加え、少経験者が見ても分かりやすく、実務に役立つコンテンツを提供しています。また、他都市調査や情報調査等で様々な情報をデータ化し、研究活動に寄与できるような活動を行っています。

予算管理ソフト（すいすい予算管理）のバージョンアップ

昨年度公開した予算管理ソフト「すいすい予算管理」を、さらに使いやすくした「すいすい予算管理Ver2.0」を作成し、ホームページに掲載しました。そして、活用方法を広報誌「じむけん！」や全体研修会で紹介しました。

名事研ホームページの更新

対外的広報と会員支援を目的としている名事研のホームページの管理・運営を行い、名事研事業の紹介や、スキルアップ・実務に役立つ情報、学校事務ハンドブック、研究部通信等のコンテンツを掲載しました。

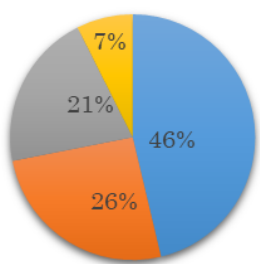
広報誌の作成

名事研事業の対外的なPR及び学校事務の職務の方向性を考えるきっかけとなることを目指して「名事研ニュース」を発行し、各学校長と関係機関に配布しました。また、専門部や名事研事業を身近に感じてもらうための会員向け広報誌「じむけん！」をメールで配信しました。

情報調査

名古屋の学校事務職員の現状を数値的データとして把握し、今後の研究や事業の参考にするため、会員向けに情報調査を行い、その結果を統計学的に分析しました。

使用している予算管理ソフト



- すいすい予算管理
- 決算書をつくってみよう
- その他ソフト
- 利用していない

※情報調査の結果より抜粋

すいすい予算管理 支出明細

No.	種別	年度	品名	規格品質	数量	単価	税区分	金額	予算	前区分	業者	EIS	
												入力	出力
498	48	R4.2.1	上置紙	空葉紙専用	30	1	税込	189,500	標準課金費	10	標準		
499	48	R4.2.1	上置紙	上置紙 A5×25mm	1	1,411	税込	1,411,000	標準課金費	10	標準		
500	48	R4.2.1	上置紙	上置紙 A5×25mm	1	1,599	税込	1,599,000	標準課金費	10	標準		
501	48	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	2,489	税込	2,489,000	標準課金費	10	標準		
502	500	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	768	税込	768,000	標準課金費	10	標準		
503	501	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	354	税込	354,000	標準課金費	10	標準		
504	500	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	924	税込	924,000	標準課金費	10	標準		
505	500	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	5	378	税込	1,890,000	標準課金費	10	標準		
506	504	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	3	540	税込	1,620,000	標準課金費	10	標準		
507	505	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	843	税込	843,000	標準課金費	10	標準		
508	508	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	8	284	税込	2,272,000	標準課金費	10	標準		
509	507	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	5	195	税込	975,000	標準課金費	10	標準		
510	508	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	7	44	税込	308,000	標準課金費	10	標準		
511	508	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	3,899	税込	3,899,000	標準課金費	10	標準		
512	510	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	959	税込	959,000	標準課金費	10	標準		
513	511	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	1,221	税込	1,221,000	標準課金費	10	標準		
514	512	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	26,039	税込	26,039,000	標準課金費	10	標準		
515	513	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	81	225	税込	18,225,000	標準課金費	10	標準		
516	514	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	1	18,500	税込	18,500,000	標準課金費	10	標準		
517	515	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	6	1,959	税込	11,754,000	標準課金費	10	標準		
518	516	R4.2.1	上置紙	標準A5カラー紙専用	6	1,959	税込	11,754,000	標準課金費	10	標準		

研修部活動報告

名事研研修部では今年度、令和2年度に実施できなかった集合型（対面型）の研修会事業の再開を計画していました。研修会再開に向けて「名古屋市立小中特別支援学校事務研究協議会 研修会開催のためのガイドライン」を策定（令和3年6月）し、感染症対策を徹底した研修会の実施を予定していましたが、緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用といった社会的な情勢を考慮し、計画の変更を余儀なくされました。今年度も集合型の研修会の再開は不可能だと判断し、代替手段として、会員が自らの学校を離れることなく研修に参加できるようなこれまでにない仕組みを考えた結果、メールや「L o G oチャット」（庁内ネットワーク接続端末等で使用できる自治体専用ビジネスチャットツール）を活用した研修会を実施することとしました。

また、昨年度も作成した自主研修資料「S o l a」を今年度も引き続き作成し、名事研ホームページ上で公開しました。

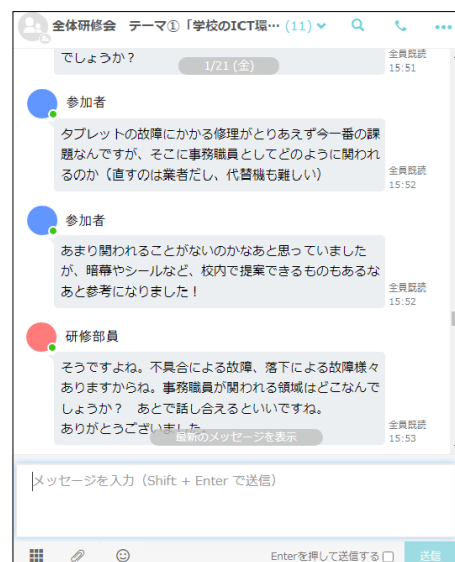
事務-Gymステップアッププログラム（経験者向け研修会）

「学校施設のリスク管理」をテーマとし、学校事務職員の視点から学校施設のリスクを捉えて事前に対処できるようにしたり、校内の他の職員との協働等について考えたりする機会としました。資料とワークシートを活用した自席研修として開催した本研修会は、受講者が作成したワークシートを研修部で集約し、その集約結果を受講者全員で共有することにより、他者の視点や考えを知る機会となるよう努めました。ワークシートの集約・共有はイントラメールを利用して行いました。

全体研修会

「ICT環境整備」「学校間連携」「予算管理」の3つのテーマを扱い、資料配布による自席研修と、L o G oチャットの機能を用いたオンライン研修を組み合わせた形で実施しました。受講者の方にはそれぞれ希望するテーマの資料やワークシートを用いた自席研修に事前に取り組んでいただいた上で、L o G oチャットを活用して他の受講者との意見交換やデータ共有を行いました。

L o G oチャットの利用は、自席研修が「配布された資料を各自で読むだけで終わってしまう」ことを防ぎ、他の受講生との意見交換や交流の機会が持てるようにすることをねらいとして、本研修会の実施方法として取り入れました。当日の参加や画面上の操作がスムーズに行えるよう、研修会用のL o G oチャットマニュアルを事前に作成・配布するとともに、限られた時間の中でも活発な意見交換となるよう、研修部員の進行のもとリアルタイムに文字やデータでのやり取りを行いました。



※一部画像の編集を行っています。

自主研修資料「S o l a」教科書給与編

パソコンやスマホから取り組むことのできる自主研修資料「S o l a」を作成し、名事研ホームページ上で公開しました。今年度は研修部が以前に作成・公開していたS o l a「教科書給与」編をリニューアルし、内容の見直しや最新の情報への更新、スマホでの画面表示への最適化などを行いました。教科書給与に関する法的根拠などの基礎的な知識、転入や転出の際に必要な事務処理などを各自で学ぶことができる資料としました。感染症の拡大状況等に左右されずに研修が行える「S o l a」は、今後も会員が研修機会を確保できるツールとして活用できるように、継続的に発展させていきたいと考えています。

